



2016. 1. 1

# 1月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸YMCAちとせ幼稚園

新しい年の始まりを皆様はどの様に迎えられるでしょうか。忙しい毎日をご過ごす現代人にとっては、家族が顔をそろえて過ごす何日かが与えられ、家族を一番実感出来るのも、お正月なのかも知れません。核家族が増えて三世同居の家族も減っていますが、お正月には子どもたちも祖父母と過ごす時を経験し、繋がっている親子の関係を実感するかも知れません。また人間の寿命は長く、他の多くの動物とは異なって三世代が、同じ時代を同じ場所で生きることも珍しくはなく、このことによって、様々な知恵や風習も世代を超えて伝えられていくのです。

「家族は、子どもがどう生きるかを練習する場である」という言葉を聞いたことがあります。父母や祖父母からは、まずは母性的な無条件の愛情を受けて、自分は愛されているという安心感から安定した心の成長がもたらされます。また、何でも兄姉の真似をしたいという気持ちから学ぶ意欲が高められ、弟妹を引き連れて遊ぶことから、責任感や優しさも身につけていくでしょう。まさしく家庭、家族の中でこそ、人間としての成長の基礎が形成されるのです。さらに親子の関係は一生続くものですが、この関係のスタートがこの子ども自身が自我を持ち始める幼児期であることも事実です。2歳頃からは何でも自分でしたがるのが普通で、その時期に親が「危ないから」「散らかすから」と、子どもがしたがることを制しすぎたりすると、

「いやっ」と反発の意思を示すかも知れません。また、ある年齢になると家庭でのルールやマナー等を躰けようとするのですが、これもいくら言葉で言って聞かせてもなかなか身につかないものです。「自分の嫌なところと似ているわが子の姿にいらだつ」ということもよく耳にしますが、良くも悪くも、教えるつもりはなくとも、言葉遣いや態度は、親に似てくるもので、まさしく「子は親の鏡」と言われるように、子どもの成長は親自身の生き方を映し出していると言えるのです。

また、本当に自分を愛してくれているのかどうかという不安な気持ちを抱いている子どもは、親を困らせる手段を使って、親の愛情を確認しようとしています。そんな時、親は頭ごなしに子どもの問題行動を叱るのではなく、子どもがそんな不安な気持ちを抱いていることを受け止めて、親としてどう対応していくのかが問われているのです。これは、子どもが思春期を迎えて親に反発する時にも、うるたえたり逆に押さえ込んだりするのではなく、その嵐が過ぎ去るのを穏やかに受け入れて見守ることが出来るかどうかの違いとして現れるでしょう。やはり子どもにとって一番必要なのは、何があっても自分を無条件に受け入れて愛してくれていると実感させてくれる親なのです。

大人は大人としての責任を自覚し、家庭においては親としての自らの生活を守り、また子どもは幼稚園でも子どもらしく生きること、そして自ら考えて行動することが認められて、自分自身の生きる価値観を見出していくことが出来ることを願って、この一年の歩みを始めたいと思います。

## 年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5章9節)

## 1月主題 「なかまとひびきあう」

聖句 “平和の福音を告げる準備を履物としなさい。”

(エフェソの信徒への手紙6章15)